

東京都お台場の  
高層マンション群

## 第1章

## 1. 現代社会の歩み

## 1 経済のめざましい成長

## 日本の高度経済成長

## ポイント

高度経済成長……1955～73年にかけて、年平均10%以上の経済成長をとげる。  
高度成長の要因…技術革新の導入，設備投資，良質の労働力など。



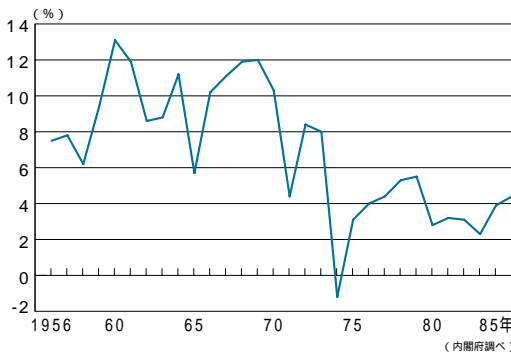
## くわしくつかもう

## ① 高度経済成長

1956年度の経済白書で「もはや戦後ではない」と表現されたように、日本は1950年代半ばに戦後の復興を完了し、戦前の消費水準を突破して、以後1973年に第一次石油危機が起こるまでめざましい経済成長を続けた。

高度経済成長は1965年の不況をさかいに、第一次高度経済成長と第二次高度経済成長に分けられる。第一次経済成長期は設備投資を

## 資料 日本の高度経済成長を示すグラフ



中心に急速に拡大を続け、第二次経済成長期は設備投資の拡大に加えて輸出の拡大や政府の財政投融資などが、高い経済成長を支えた。この間の経済成長率は年率10%に達し、わずか15年で国民総生産（GNP）は4倍以上に拡大した。この世界に例を見ない経済成長によって1968年、日本の国民総生産は資本主義諸国のなかでアメリカについて第2位となり、日本は「経済大国」に発展した。

## よりくわしく

国民総生産  
(GNP)

一国における全産業の財・サービスの生産物を市場価格で示したものの重複をさけるため、総生産額から原材料などの中間生産物の価格を差し引いて求める。

## ② 高度経済成長の要因

高度経済成長の基本的な要因としては、技術革新の導入，投資の増加，若年労働力の確保などがあげられる。欧米の技術革新の導入にともなう生産設備を整えるため、企業は資金を投下して設備投資を行った。それが他の企業の設備投資をさそい、投資が投資を生むことによって設備投資が急速に拡大し、その結果、雇用の増加と生産性の向上をもたらした。また、工業の拡大とともに多くの若年労働者が農村から都市に移り、高度成長を支えた。そして労働者の都市への流入は、産業構造に変化をもたらした。

# 高度経済成長と暮らしの変化

## ポイント

高度成長の成果...生活水準が上昇し、耐久消費財を普及させる。  
産業構造の変化...サラリーマンが増加、第一次産業が衰退する。



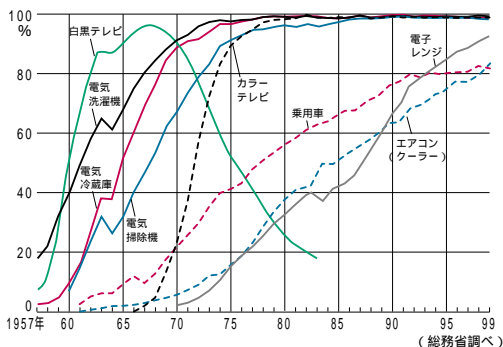
## くわしくつかもう

### ① 高度経済成長の成果

高度経済成長は日本を資本主義諸国

で第2位の経済大国にし、国民の所得水準や生活水準を上昇させた。所得水準の上昇は消費水準を拡大し、家庭生活において耐久消費財の普及率をめざましく上昇させた。第一次高度経済成長期には「三種の神器」とよばれた電気洗濯機、電気冷蔵庫、白黒テレビが急速に普及、さらに1970年代以降には「3C」とよばれたカラーテレビ、カー（自家用車）、クーラーが普及し、国民生活は大きく変化した。

### 資料 耐久消費財の普及率の変化



### ② 高度成長の負の側面

高度経済成長にともなう若

年労働者の農村から都市部への移動は、第一次産業を衰退させ、産業構造に変化をもたらした。農村では過疎化が進み、農作業や医療、教育などで一定水準の維持を困難にした。一方、都市では過密化が進展し、住宅難や地価の上昇をまねき、さらに、工場廃水や自動車の排出ガスによる公害問題も引き起こした。また、企業の生産や効率を優先する政府の経済政策により、生産関連社会資本の整備が優遇され、生活関連社会資本の整備は大きくたちおくれた。その結果、日本の都市の公園面積は主要国のなかで最低の水準となった。

### 資料 産業別就業人口の割合の変化

| 年     | 第一次産業 (%) | 第二次産業 (%) | 第三次産業 (%) |
|-------|-----------|-----------|-----------|
| 1955年 | 37.6      | 24.4      | 38.0      |
| 1960年 | 30.2      | 28.0      | 41.8      |
| 1965年 | 23.5      | 31.9      | 44.6      |
| 1970年 | 17.4      | 35.2      | 47.4      |
| 1975年 | 12.7      | 35.2      | 52.1      |
| 1980年 | 10.4      | 34.8      | 54.8      |
| 1985年 | 8.8       | 34.3      | 56.9      |
| 1990年 | 7.2       | 33.6      | 59.2      |
| 1995年 | 5.7       | 32.9      | 61.4      |
| 2000年 | 5.1       | 30.7      | 64.2      |

### ③ 高度経済成長による変化

高度経済成長期には都市部にサ

ラリーマンが増加し、終身雇用や年功序列の賃金体制が固定した。また、農村から都市部への若年層の移動なども手伝って、家庭生活では核家族化が進展した。

### よりくわしく

生活関連社会資本  
住みよい環境をつくる施設。住宅、学校、公園、上下水道、交通機関など。

## テストに出る 要点チェック

わが国の高度経済成長は( )年代半ばから第一次石油危機が起こるまで続いた。高度経済成長の要因の一つに、欧米の( )の成果を積極的にとり入れたことがあげられる。